



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

通年コース第五・六回開催報告
 「下草刈り・伐木造材」

『梅雨の晴れ間に』

春と夏の間、五月晴れの乾季と梅雨の雨季。前線は、オホーツク海と太平洋の高気圧のせめぎあい。植栽をした山では、苗と草本のせめぎあい。数十年をかけて成長していく苗に、一年勝負の草本が覆い被さるよう。地際すれすれのところから枝を伸ばそうとして、いる小さな檜つ子に、湿気を含んだ風とたくさん光



刈り払い機 講座

が当たりますように、一日目は下草刈りです。今回は、手鎌・造林鎌・刈払機での作業を体験して頂きました。三者三様の使い方・構え方。一心不乱の単純作業。それでも、刈り払った後のきれいな林地が充実感を与えてくれる。植栽後の数年間は、少なくとも一年一回、適期をのがさず



ナタ鎌には、片刃と両刃が

下草刈りを。うってかわって二日目は、チェーンソー。間伐をするのに欠かせない伐木造材道具。伐倒での使い方、枝払いでの



メンテナンスは入念に

使い方、造材での使い方、それぞれの場面での、基本に忠実な、理にかなった使い方を身に付けましょう。体勢にしても、身体の重心とチェーンソーの重心が離れすぎていませんか。両足の間で使うようなことはなかったですか。そして、受け口・追い口。つる。斜めの角度が四十五度の受け口は、二等辺三角形。つるは、蝶番。苗をはぐくむ下草刈り、林をはぐくむ間伐につながる伐木造材。そんな育み方二つの二日間。お疲れ様でした。



バイオニアプランツ検索

通年コース第五・六回
 6月17日(金)
 下草刈り

8時30分
 島崎先生の山小屋に集合。
 早川講師の挨拶。日程説

9時15分
 明のあと、車に分乗して西春近へ向かう。林道入り口に駐車。
 9時20分
 機材や燃料など準備を整えて、春に植林をした現場へ。
 9時20分
 どんな灌木や草が生えてきているか、バイオニアプランツの検索を早川講師の説明にて。
 9時50分
 早川講師による、下草刈りの時季や回数、手鎌・造林鎌・刈払機といった道具の使い方や注意事項、作業の要領などの講義を受ける。質疑応答のあと、
 10時10分
 手に手に道具を携えて、いくつかの「しま」に散らばり、下草刈りの開始です。さっそく刈払機の講習を受ける方もありましたが、ほとんどの方が、春



二等辺三角形の受け口



傾きは、どっち？

12時 現場にて昼食。栗栖さん、漬物とゆで卵の差し入れありがとうございました。

13時 下草刈り再開。ほとんどの方が刈払機での作業を体験したようです。今回は三タイプの刈払機がありましたがお気に入りのタイプは見つかったでしょうか。

14時35分 現場作業を終了。刈り払った

た「しま」が一目瞭然。超・気持ちいい。道具を片付けて小屋へ戻る。

15時20分 鎌の研ぎ方を早川講師に実演して頂いたあと、公園の水路に並んで鎌を研ぐ。

16時 諸連絡、講師講評に続き、島崎先生のあいさつ。終了、解散。

6月18日(土)
伐木造材

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。

8時40分 長野県の新規間伐計画など人工林の現況やチェーンソー作業の労働安全衛生について、早川講師の講義を受ける。

8時50分 小屋下の林道に向かい、着後、体操。

9時5分 早川講師から、チェーンソーの構造や始動方法、取扱注意事項や禁止動作の説明を受け、順番にエンジンを開始してみる。

9時30分 各班に分かれて、丸太の輪切り。ほとんどの方が経験者なので、楯に積まれ

10時35分 予定を早めて、早川講師の短木を使った伐倒方法講義。受け口・追い口・つる。そして、構え方。実演もして頂きました。

11時 各班毎に道具を準備して、伐倒を開始。伐倒実習地は、林道から少し上ったアカマツ主体の林分。まずは腕試し。平林班は度胸試しもかねてか、少し傾斜のあるところへ。後藤班の春日さんは、午後早退のため、集中伐倒。

12時

13時 伐倒再開。傾きをみて、枝張りを考慮し、伐倒方向を決め、退避路を確保してから、チェーンソーを入れる。皆さん二本以上伐倒できたようです。

15時20分

16時 諸連絡、講師総括にて、終了、解散。

参加者/遠藤さん、春日さん、熊木さん、栗栖さん、小林さん、下崎さん、田村さん、中神さん、松岡さん、角田さん

講師/早川講師
スタッフ/大野、川島、後藤、平林、坂野



きれいな空気を、吸気、する、には

次回以降の予定

専門コース第二回開催

6月30日(木)

7月2日(土)

早いもので第二回目の開催です。8時30分、島崎先生の山小屋に集合。小屋裏の



界しました。

一九七五年、当時は新進鋭の創業者に率いられて、日本で最初の業容を独自の理想と理念で開拓して行こうという企業に入社した私は、まだ林業の「リ」の字にも関心のない二十四歳の一青年でした。爾来、二十四年余の星霜が流れ、三人の子どももまずまずの成長をして、会社は、といえば、理念と実態は大きく乖離していたうえ、硬直化・形骸化した組織は、既に理念はもとより、捏造や中傷が夥しく、社是は偽善以外の何物でもないものとなっていました。もうここに一分一秒たりとも居てはいけな

から口に出しましたので、という事で、三月末に受理、四月は一ヶ月間の有休を頂戴し、五月一日付け退職となりました。一九九九年のことです。

以来、在職時には想像

もつかぬ体験に感動を重ね、また、府立職訓校木工科に通い、木工をそれなりに考えて、翌年修了と同時に、枚方八口ワーク経由で、飛驒の木工所へ幾度か行き就職。ところが、地域的に極めて排他性がつよい上に、出入りの激しい会社で、緊急雇用創出特別奨励金「三十万円が目当ての採用だった事に気づいた時は、既に三ヶ月が経過、会社都合で退職。社長夫人と職工責任者とが仲良しで、木工技能に疎い社長さんは、ストレスから来るグルメ三昧。従業員は面従腹背、安い・悪い・納期厳守を合言葉にして、万一クレームが来たらば、そのときに個別対応すればよい、という酷い会社でした。そのとき、他所者は働かなければ勿論お払い箱だが、働きすぎてもお払い箱になる、という事がわかりまし

た。他者者とはにかく、一生懸命にがんばるし、まじめにコツコツやる訳ですが、それが良くないことなんです。ここでは、理不尽・不条理、そして、何故に木工業界が外国製品に席捲されているのか、その原因は構造的で、業界内部に問題の根があること、等々を垣間見ることが出来ました。

その後、高山市内の県立技

能専の木工工芸科へ入校、先述の職工責任者の出身校で、在職時いつもそれをひけらかして自慢もしていたし、どんなものかと思ひ、おさらいの意味もあって入校したのです。大阪府立の方は同じ一箇年でも短期課程、高山の方は普通課程、成程確かに履修内容は全く違いました。単身での、食うや食わずの高山での生活は、たいへんでしたが、とても勉強になりました。クラスメートも様々でしたが、印象に残る人々でした。ある人は、狂的に女性好きで、その歡心をかう事が唯一絶対であり、その為に虚言癖がありました。皆その人に取り入っていました。かと思えば、信義に篤く、浮世の世渡りは二の次で下手でしたが、信頼に十分足る人も居ました。良くも悪くも、人間界の金銭や名譽、地位などとは関わりのない信実という事、そして人間のもつ憐

れみや哀しみのようなものを日々一年存分に感じました。またこの一年は、平湯の方へ毎週のように通い、ポランテアで倒木処理の手伝いをしていました。これは後々、森林の魅力に嵌り、ひいては林業に目を向ける端緒となりました。勿論、当初はチェーンソーなど使う事なく、太いものを手鋸で伐り、夏は草むしりをし、秋頃から他の人の持つてくるチェーンソーを傍らで見えていました。昼食もガソリン代も自分で、報酬は近くの温泉の無料バスで、一回入浴できるだけのものですが、今思えば、これが森との馴れ初めでした。

二〇〇三年春、修了後一旦

帰阪し、人事採用の職歴で話があり、森や木とは全く無関係の仕事をしていましたが、十月から新規の職業体験施設開館で木工経験者の求人があり、応募し就職しました。木工体験の面白さを皆さんに伝えていく仕事は非常に魅力的でしたが、館運営が収入一に対して経費百というような不均衡で、更に、一人の老講師が無類の女性好きで思い込みの激しい方で、意中の若い職員に歡心を得たい事もあったので、情けない諸々もあり、謹んでお暇を頂戴しました。

唯、ここに居た時、図書館で精読した森林関係の数冊が私の運命を決めました。それぞれが、それぞれに、必要なルートを巡って、森林塾に通って勉強させてもらっている今の私があります。有難い限りです。「今宵(今生)は二度ない。」金銭はむろん、地位や名譽とも無縁の私の人生は豊かです。

「五月晴れ」現代では、鯉

のほりがそよぐ、五月のさわやかな晴天ですが、旧暦の時代には、梅雨の晴れ間の蒸し暑い夏の日を五月晴れと呼んでいたそうです。関東甲信越地方では、いちはやく梅雨入り宣言が出されましたが、ここ伊那谷では、例年よりもかなり雨が少ない状態が続いています。蛙の合唱が恋しい今日この頃です。

しまいます。因みに、おととし、小枝に二匹前後に並んで脱皮した春蟬の脱け殻を見つけ、持ち帰って来ました。触角まできれいに残っているんです！小箱に入れて時々こっそり眺めています。脱け殻を見つけた時の嬉しさと、壊さないよう息を詰めて、そっと触れる時のドキドキする気持ちを、思い出しながら。

「五月晴れ」現代では、鯉

のほりがそよぐ、五月のさわやかな晴天ですが、旧暦の時代には、梅雨の晴れ間の蒸し暑い夏の日を五月晴れと呼んでいたそうです。関東甲信越地方では、いちはやく梅雨入り宣言が出されましたが、ここ伊那谷では、例年よりもかなり雨が少ない状態が続いています。蛙の合唱が恋しい今日この頃です。

コラム

おわりに

「一篇」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994



E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) URL http://www.koanet.co.jp